

1月17日（水） 朝礼のお話

## 阪神淡路大震災から29年

ついこの間お正月だとおもったらもう半月以上過ぎてしまいましたね。3学期はとっても短いから気がつくとすぐに学期末になってしまいます。毎日を丁寧に過ごさないといけませんね。

さて、今日のお話です。ことしの元旦に石川県を中心とした能登地方で大きな地震がありましたね。亡くなった方も大勢で大きな災害になりました。そして今日、1月17日は阪神淡路大震災と言う大きな地震が起きてから29年目にあたる日なんです。東日本大震災から今年で13年だそうですから、29年前の阪神淡路大震災を知っている人はいませんね。先生方の中でもこの地震を覚えていない人もたくさんいます。この地震の特徴は神戸や大阪、京都といった現代の大都会の真下で起こった地震ということです。震度7と言う地震の大きさとしてはほぼ最大級の揺れが大都会で起こったわけですね。校長先生は東京にいたので地震の揺れ自体はほとんど感じませんでしたが、朝のテレビを見てびっくりしました。大きなビルや高速道路がそのまま横倒しになったり、町のあちこちで大きな火事が起こっている様子を見て、これが日本の町だとは信じられない思いでした。まるで映画を見ているような気持ちになりました。

この地震では6000人以上の方が亡くなり、数え切れないほどの家やビルが倒れたり、燃えたりしました。地震そのものは大変に不幸な出来事でしたが、その後、この日本はこの地震から大切なことをたくさん学ぶことができ、今では当たり前のようになっていることがたくさんあります。実はこの学校にもそれがたくさんあります。例えば、この校舎です。けやき小の校舎は最初から地震に強い作りになっています。おかげでその後起こった東日本大震災でもほとんど被害がありませんでした。

そのほかにも、電気や水が止まった時に備えて、学校には非常用のトイレを作るための準備がしてあります。倉庫にはペットボトルの水や水を入れるだけで食べられる食料、学校が避難所になった時に使うものなどがたくさん準備してあります。こういった準備が本格的に学校で行われるようになったのも阪神淡路大震災からあとのことです。

そして、今大きな災害がおきるとたくさんのボランティアの人たちがかけつけますね。こんな姿も阪神淡路大震災から始まったものです。

大きな地震や災害がおこることはとても不幸なことです。でも私たちはそんな大きな災害があるごとに備えを積み重ねています。これがとても大切なことですね。地震などの災害を防ぐことはこの先かなり科学が進歩しても難しいと思います。でもそれに対する備えは人間の知恵と努力でどんどん堅くしていくことができます。こういうことを「教訓を活かす」なんて言いますが、私たちにとってはとても大切なことですね。

今日は発生から29年目を迎えた阪神淡路大震災のことと、そこから始まった色々な防災のための備えについてお話しました。今日も最後まで一生懸命聴いてくれてありがとうございました。お話を終わります。